

N-7 石巻市牡鹿地区大原浜・新山浜 2012年7月15日(日)

報告者名 山口未花子 被調査者生年 ① 1950年(男)
調査者名 山口未花子 被調査者属性 ①新山浜行政区長(N-9・N-10話者①、N-8話者④)
補助調査者 なし

被調査者(主な聞き書きは話者①から)

- *話者② 生年未確認(女)、仮設住宅住民
- *話者③ 生年未確認(男)、氏子総代長
- *話者④ 生年未確認(男)、大原浜出身者(現在仙台在住)

大原浜夏祭り：本祭り

本祭りは12時から開催された。15日の神事は全て牡鹿の宮司が取り仕切ったが、浅間神社のメンバーも参列した。今回の祭りでは地震で破損した神輿のかわりに、仙台市青葉区の一丁目四丁目商店街振興組合が仙台一番町分霊社の神輿を寄贈した。さらに山梨県の宮大工から、子供神輿の贈呈もあった。これらふたつの神輿の贈呈が神社の鳥居のところで行われた。神輿は鳥居の下におかれ、鳥居の外側に大原浜区長と後藤隆道江陽グランドホテル会長らがその前(鳥居の外側)に立ち、その周り(鳥居の外側)を観客が囲むようにして式が執り行われた。NHKや河北新聞等の報道機関も取材に来ていた。はじめに区長が一番町の振興組合へ謝辞を述べ、感謝状と記念品を振興会側に贈呈した。さらに子供神輿を作った宮大工は出席できなかったため、宮大工と大原浜をつないだ山梨出身のボランティアが代わりに感謝状と記念品を受け取った。

これが終わると神輿はその場に残し、全員が参道を登って境内へ行き、神事が執り行われた。神事は従来のように祝詞をあげ、お祓いをするというものであったが、ボランティアとしてきた人たちのことを祝詞の中で言及した。そのあと、また鳥居まで移動し、神輿の前でも祝詞が捧げられた。

そしていよいよ神輿渡御である。神輿担ぎ手は男女混合、ボランティアなども含め50人近くおり、交代などしながら町中神輿を引いて回った。さらに子供たち15人ほどが子ども神輿を担いでこれに従った。子どもたちの中にも岐阜から来たという中学生が混じっていた。神輿の隊列としては、先頭の幌付きの軽トラックに太鼓と笛の演



写真1 神輿の贈呈



写真2 神事の様子



写真3 神輿渡御



写真4 子ども神輿

奏者が乗り、そのあとを塩撒きの人が塩をまいて道を清め、さらに大人神輿、子ども神輿、観客が続く。神輿の担ぎ手は道中「じょうさい、じょうさい」と掛け声をかけていた。神輿渡御のルートは、集落の北西端へ行って神輿を上下に揺らした後、いったん休憩をし、次に港からギリギリ海につからない程度まで近づき、ここでも休憩、そのあと大原浜地区の仮設住宅へ行って神輿を揺らした後しばらく休憩、さらに生活センター、集落南端の加工場を回り、生活センターへ安置された。

加工場は、今回の祭りに出資しており、大原浜や周辺の住民へ、トムロコシなどの食品のセットを各世帯に配ったという。また、仮設住宅では住民が神輿を出迎え、「大原浜だけでなく日本全国、いや世界中の助けがあったから祭りが実現した」「活気づいた」といい、神輿が仮設住宅を後にするときには「もう行ってしまうのか、淋しい」と話していた。しかし一方で、神輿のサイズが従来の3倍程度になったことから、ボランティアの人々が来なくなったら自分たちだけでは担げないのではないかという不安の声もあった。

また、この後本来なら直会にはいるのだが、今年はボランティアの仲介で歌手の葛城ユキ氏がフリーライブを企画し、直会の前にコンサートが開催された。そのあとで直会が開かれた。

氏子総代長の話では、今年はボランティアだけで250人から300人の人出があり、いつも以上に盛り上がったという。また、イベントや出店もバリエーションが多く、非常ににぎわっていた。被災して仙台などに引っ越した人々も顔をみせ、「自分の魂はここにあるから」と語っていた。ただし仙台のほうで仕事を始めた人などは、「一応高台移転に申し込んではいるが、自分以外の（出身が牡鹿でない）家族は仙台に残ることを希望している」という声もきかれ、今後の見通しは流動的であるといえそうだ。

新山浜聞き取り

【生業】

がれきの仕事はあるにはあるが、毎朝8時に行って昼まで、と決まっている。最近は谷川浜の親戚がやっているホヤの種養殖を手伝っている。とはいっても親戚なのでお金のためということではない。

本来なら今は漁に出て、たこなどもとれる。たこは冬の間にとれたものは丸ごと干して保存する。冬は暑くないし風もあるので干物を作るのに適している。また、この辺りでは2種類のたこがとれるのだが、干物にするのは真だこだけで、水だこは干物にはしない。干物はあぶってから木づちで叩いて柔らかくして食べる。木づちは自分で作ったのだが、素材としては古くなった船の底に使っていた木材を再利用している。木づちは硬すぎず柔らかすぎず、ちょうどいい。また刺身で食べるときは大根おろしに醤油をかけ、これを薬味として一緒に食べる。

新山にも最近少しずつ新造された船がくるようになった。明日にはさんま船が2艘進水式をする。さんまなんかは漁場は北海道のほうなので（震災や原発事故の）影響はまだ少ない。こちらでもヒラメなどの底モノは取れても売れない。でも一応市場に持って行って、登録する。そうすると一応風評で売れなかった分の保証金が出るという話だ。

表浜と裏浜では確かに漁が違っている。水温が裏のほうが低く、表では高いというのもあるだろう。あとは、表浜で牡蠣がよく育つのは、北上川の下流で、山から（養分を含んだ）水が流れ込むということもあるのではないかな。

【祭り】

今年の火祭りについては、まだ決まっていない。一応祭りをするかしないか決めるのは、浜の何人か、氏子総代が集まって決める。総代長がやるといえばやることになる、が今のところ誰もやりたいという話をしていない。10月のことなので、もう少し先にならないと分からない。ただし、神社の敷地をきれいにしてもらったので、やれることはやれる。本来なら会場になる部分をもう少し高く作ってほしかった。そうすると火を焚いた時の見栄えがいい。だが、そんな贅沢は言えないから黙っていた。もし火祭りをするとなると、山から木を切りだして、結構大変。高齢化が進んでそういう作業も大変になってきた。